

■荻村伊智朗 卓球の世界トップ選手。日中国交回復のため“ピンポン外交”、ITTF会長で“統一コリア”チーム実現。

おぎむらいちろう

五一五事件・1932＝ 静岡県伊東市で、荻村素男の長男に生まれる。

帝人疑獄事件1934＝ 2歳：父が死去したため、働く母に育てられる。

日中戦争始・1937＝ 5歳：

日米開戦・・・1941＝ 9歳：

敗戦・・・・・・1945＝13歳：

極東裁判判決・1948＝16歳：東京都立西高等学校に入学。本格的に卓球を始め、{吉祥クラブ}に属して、夜間も練習。

朝鮮戦争始・1950＝18歳：都の高校団体戦の憲法施行記念大会で、西高がまぐれで優勝。

独立回復・・・1951＝19歳：複数受験して過労で倒れ重体となるも回復し、東京都立大学人文学部に入学。

メーデー事件・1952＝20歳：全日本軟式選手権に初出場し、初優勝。全日本硬式選手権では東京予選で敗れ、日記に‘笑いを忘れた日’と書きつけ、すべての努力を卓球に集中することを決意。

テレビ放送始・1953＝21歳：日本大学芸術学部部に転学。全日本硬式選手権で単複に優勝。

自衛隊発足・1954＝22歳：\*募金活動をして、ロンドンでの世界選手権大会に初出場し、優勝(単・団体)、大歓迎を受ける。

55年体制始・1955＝23歳：朝日スポーツ賞を受けるも、肝炎で倒れ、以後、3年食餌療法。ユトレヒト大会出場するも敗れるが、日本チームのファインプレーで、ヨーロッパ諸国の評価を得るようになる。

国連加盟・・・1956＝24歳：日本大学を卒業。卒業制作で映画のシナリオを書き、翌年にかけて大学が映画「日本の卓球」として完成。卓球が続けられるよう、親戚の三洋繊維に入社。練習場不足を見かねた支援者が卓球場を建ててくれる。世界選手権東京大会で団体・単・複の三種目を制する。

なべ底不況・1957＝25歳：森田時美と結婚。世界選手権ストックホルム大会で団体四連勝、混合複優勝。日本スポーツ大賞(読売新聞社)を受賞。この年、後援会が本格的な国際卓球会館を建設し、以後、選手輩出。

美智子妃・・・1959＝27歳：世界選手権ドルトムント大会で団体・複・混合複の三冠。スウェーデンに招かれ、約半年のコーチ活動。

安保闘争・・・1960＝28歳：

タイタイ病始・1961＝29歳：世界選手権北京大会で混合複に優勝、通算12個目のタイトルを獲得。この時、周恩来首相に接待され、

全国総合計画1962＝30歳：再び、中国に赴き、

東京リビック1964＝32歳：三度、中国に赴き、

大学紛争始・1965＝33歳：\*現役を引退。日本卓球協会理事となり、新設された強化対策本部の強化主任に就任。

いざなぎ景気1966＝34歳：四度、中国の卓球の普及発展に協力するも、文化大革命が勃発、中国人が敵対的になったばかりか、

美濃部都知事1967＝35歳：総監督として日本チームを率いて参加したストックホルムの世界選手権大会に、中国チームが参加せず、育成していた中国の名選手が自殺、

震ヶ関ビル・1968＝36歳：この年、中国人初の世界チャンピオンで国民的英雄だった容国团も自殺したとの悲報を聞き、

大阪万博・・・1970＝38歳：周恩来に国際大会復帰を訴える電報を送るも音沙汰なかったが、

アジア選手権大会が開催された名古屋で、翌年の世界選手権開催が決定、オリンピックには台湾が中華民国として出場する時代に、唯一台湾でなく中国が加盟していた団体ということもあってか、周恩来から秘密裏に招かれ、両者困難な折衝を経て、

ドルショック・・・1971＝39歳：ついに、名古屋での世界選手権に中国が参加し、“ピンポン外交”を通じて、

日中国交回復1972＝40歳：中国との国交回復実現にも貢献。“ピンポン外交”に大活躍した後藤鉦二卓球協会会長が急逝。

石油ショック1973＝41歳：ITTF(国際卓球連盟)理事に就任。オイルショックが起きたため、サウジアラビアに卓球普及に乗込む。

JALハイジャック・1977＝45歳：

沖縄県編入・1879＝47歳：ITTF会長代理。

貿易摩擦始・1980＝48歳：日本卓球協会の専務理事に就任。

中曽根内閣・1982＝50歳：

バブル始・・・1986＝54歳：

竹下登内閣・1987＝55歳：\*ITTF総会で現職のエバンス会長を破り、第3代ITTF会長に就任、日本人初の国際競技連盟の会長となる。日本卓球協会の専務理事は退任。

リクルート事件・1988＝56歳：この年のソウル・オリンピックで、初めて卓球が正式種目となる。

ドイツ統一・・・1990＝58歳：世界チャンピオンを招いて、卓球のディナーショーを開催、

ソ連崩壊・・・1991＝59歳：世界選手権千葉大会で、韓国と北朝鮮の合同チーム“統一コリア”の参加を実現し、IOCのサマランチ会長も来場。JOC(日本オリンピック委員会)の国際委員長に就任したが、

55年体制終・1993＝61歳：

自社さ連立・1994＝62歳：日赤医療センターに入院し、肺ガンのため、没した。

自伝「笑いを忘れた日」、